

No. **17**
2006.Aug.



Jeans, The Beatles, magazines, and more

イベント学会 2006年度研究大会・総会

新しい時代をリードする

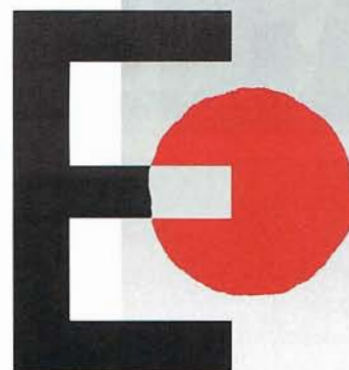
団塊の世代とイベント

～2007年問題を社会の活性化に転換する～



Contents

- プログラム／開会挨拶 秋岡榮子…………… P2
- 基調講演…………… P3
『団塊ビジネス・フェア』堺屋太一
- 研究発表…………… P4～5
『2007年——熱くなる団塊と地域・イベントの創造』阪本節郎
- パネルディスカッション…………… P6～8
『新しい時代をデザインする社会実験としてのイベント』
秋岡榮子／霜田正明／田中尚輝／東 直子／師岡文男
- 総会報告…………… P9
- 学会員リレーエッセイ…………… P10～11
『イベント雑感』澤田裕二
- インフォメーション…………… P12



イベント学会会報「イベントロジー」

EVENTOLOGY

2006年度研究大会・総会プログラム

2006年6月19日、イベント学会の2006年度研究大会が東京グリーンパレス(千代田区二番町)にて開催された。団塊世代が一斉に定年退職を迎える「2007年問題」を目前に控えた今大会のテーマは『新しい時代をリードする団塊の世代とイベント』。団塊ビジネスやエルダー・イベントの現場で活躍する研究者や関係者が多数集まり、それぞれの意見を交わした。

12:30 開場

総合司会 宮木宗治 イベント学会理事

13:00 開会挨拶

秋岡榮子 研究大会実行委員長・イベント学会理事

13:15 第Ⅰ部 基調講演

『団塊ビジネス・フェア』

堺屋太一 イベント学会会長

14:00 第Ⅱ部 研究発表

『2007年——熱くなる団塊と地域・イベントの創造』

阪本節郎 (株)博報堂 エルダービジネス推進室室長

14:50 第Ⅲ部 パネルディスカッション

『新しい時代をデザインする
社会実験としてのイベント』

【モデレーター】

秋岡榮子

イベント学会理事

【パネリスト】

霜田正明

クラブツーリズム(株)

クラブ1000構想推進部部長

田中尚輝

地域創造ネットワーク・ジャパン専務理事

東直子

(株)小学館 『サライ』編集長

師岡文男

上智大学 文学部教授・保健体育研究室長

16:30 2006年度総会

17:00 懇親会

18:30 散会

総合司会、自らも団塊世代である宮木宗治がイベント学会理事を務めた



会場となったのは千代田区二番町にある「東京グリーンパレス」

イベント学会とは

イベント研究者のみならず、さまざまな分野の研究者、技術者、専門家や実務者が経験や知識の多少にかかわらず参加し、積極的な相互作用を通じて「異質な知と技能のメルティング・ポット(るつぽ)」となる学会です。

多様な専門、異なった立場から提示される知識、ノウハウ、経験がときに競合し、干渉しあい、やがてそれらが共鳴、交響して、創造的に共同成果を生み出すような機会と場を創り出すこと、それこそがわれわれのめざす新しい学会です。

開会挨拶

研究大会実行委員長 秋岡榮子



少子高齢化の進展によって、現在は、日本の活力が失われるのではないかとという論調が主流を成しています。そして、団塊の世代が定年を迎える2007年問題が、いよいよ目前に迫ってきました。

いうまでもなく、団塊の世代は、常に時代をリードし、また流行のさきがけをつくってきた人達です。この団塊の世代が60歳というひとつの節目を迎えた時に、これまでの60歳とは違った人生を切り開いていくのではないのでしょうか。また、これから地域に、あるいは産業社会の中に、団塊の世代が入ってくることが、大きな活力になることも期待できます。

このような大きな可能性をもった団塊の世代のソフトランディングを、日本の社会が上手に受け止めることが、日本社会の新しい活力につながるはずです。イベント学会としては、イベントによって、そのきっかけづくりのお手伝いができればと考えております。

そこで、本日の大会は、「新しい時代をリードする団塊の世代とイベント」をテーマとして、団塊の世代の皆様の目線に立った議論を進めていく予定です。議論を通じて何かひとつヒントをお持ち帰りいただければ、実行委員長としては幸いです。

Profile ● あきおか・えいこ

一橋大学社会学部卒業後、(株)日本長期信用銀行入行。(株)長銀総合研究所を経て、98年同行退社。現在、E&Cブリッジズ代表取締役。農水省 食料農業農村政策審議会専門委員、国交省 国土審議会専門委員会委員などを兼務。経済エッセイスト・経済キャスター。

団塊ビジネス・フェア

イベント学会会長 堺屋太一

団塊の世代の存在が、社会的に顕在化してきたのは、彼らの中学の卒業に合わせて、猛烈に高校が増設された時からです。舟木一夫の「高校三年生」が流行したように、高校ブームが巻き起こった。それがやがて、ヤングブームになり、ニューファミリーになった。

団塊の世代が新しい流行をつくりだしたのは、人数の多さだけではなく、数多い若者が、どんどん大都市に集中した時期だったからです。したがって、情報発信力が非常に高かったんですね。この頃から、若者が流行を創るという風潮が始まりました。

その次に言い出されたのが、窓際族ですね。これは1980年代です。バブル期には、この窓際族がプロジェクトを開発。やたらと交際費を使った。交際費のピークの1994年には6兆円。官官接待等を入れればおそらく8兆円くらいでしょう。

そして今、団塊は「定年」を迎えることになりました。

団塊世代の定年で ビッグな市場が出現

団塊の定年は、年功賃金、終身雇用からの離脱であって、労働市場からの退場ではありません。徳川時代から現在まで、人間は平均寿命の6割くらいは働くものでした。現在の寿命は80歳だとすれば、大学を出てから48年、つまり70歳くらいまで働くことになります。ですから、これからは、市場価格で働く大量の労働者が登場してくるわけです。

その結果、団塊は「職縁社会」、つまり、職場の人と飲食やレジャーを楽しんだりする職場の縁による社会から遠ざかることになります。

これまでのマーケットは、「職縁社会」「官僚主導・業界協調」「日本的経営」という戦後型トライアングルを前提に考えられてきました。だから、高級なレストランや楽しい買い物は、強い帰属意識を持つ職場の近くにあった。自宅の周辺には、スーパーやコンビニなど

効率的で面白みを欠いた店が立ち並んだ。

ところが、団塊の定年で、この前提とは違う膨大なマーケットが生まれるわけです。わかりやすいのは開業医。たとえば、70歳の患者は、若い医者よりも、市立病院の内科部長を引退したような人がいい。だから、定年後に独立する医者が増え、ついに開業医の平均年齢は60歳を超えました。

他の分野では、高齢者が欲しい商品やサービスはなかなか見つかりません。たとえば、高齢者用の本や音楽はありません。健康な高齢者を対象にした心理学や商品学はありません。その理由は、若い人に比べて、高齢者は、体力も経済力も社会的地位も趣味もバラバラで、あまりに多様化しているために、大量生産、大量供給に向いていなかったからです。同じ年の子供を40人学級で教えることはできますが、70歳の高齢者を40人集めて教えるのは無理ですからね。

しかし、これからは、物財が多いことが幸せだという近代工業社会から、満足の大きさが幸せだという知価社会になった。多様化が可能になったから、高齢者の満足を真剣に考える必要がある。

そこで、学会としては、イベント学会10周年の記念に、高齢者を対象にした商品のフェアを定期的に開催したいと考えています。もちろん、「高齢者商品」という名前をつければ嫌がられるでしょう。これも高齢者心理学ですね。

70歳まで働いて、90歳まで使うという高齢者サイクルが、あらゆる分野で創造できれば、人類史上、もっとも生産人口比率が高い社会になり、日本経済はおおいに発展するはずです。



Profile ● さかいや・たいち

1935年大阪府生まれ。東京大学経済学部卒業後、通産省入省。日本万国博覧会、沖縄海洋博覧会などを手がける。1998年から2000年まで経済企画庁長官。現在、早稲田大学日本橋キャンパス学督。作家。

2007年 熱くなる団塊と地域・イベント創造

(株)博報堂エルダービジネス推進室室長
阪本節郎氏

団塊の世代が 定年後の新しい ライフスタイルを創り出す

2007年問題が盛んに取りざたされています。しかし、見方を変えれば、2007年は、団塊の世代に、これまでなかった、定年後の新しいライフスタイルを創り出す大きな機会ではないでしょうか。

なぜなら、団塊の世代は、従来の50代とはまったく違う定年観を持った世代だからです。弊社エルダービジネス推進室がおこなった、団塊の世代へのアンケート調査でも、それが明らかになりました。

これまで定年といえば「下り坂」「余生」といった淋しいイメージがありました。しかし、団塊の世代は、「新しい出発」と捉えている。アンケートでは、団塊男性の85%が「定年が楽しみ」と答えていました。

考えてみれば、団塊は「公の生活より私生活が大事」とマジョリティが初めて言った世代です。学生の頃はビートルズやアイビールックの情報を知っている人が偉く、勉強ばかりしていると「ガリ勉君」と嫌われた。そんな中で育っているの、定年後はすべての時間を自分のために使える、とワクワクしているわけです。

自分なりのライフスタイルを創造する意欲も高い。アンケートでは、団塊の世代の78%が「自分なりのスタイルを創造したい」と答えていました。もちろん大半の人は定年後も働くでしょうが、「自分なりにのんびり

りと暮らし、趣味を究めながら、友人・知人や家族との絆を深めつつ、地域貢献をしたり、仕事の経験を生かす」。そんなライフスタイルに憧れているようです。

団塊世代は、過去に、ビッグウェーブを起こしてきた世代です。ビートルズやアイビールックなどの若者文化を巻き起こした「ファーストウェーブ」。ニューファミリー、スニーカーミドルと呼ばれ消費をリードした「セカンドウェーブ」。そして、リタイアする彼らが再び「サードウェーブ」を起こすことは十分に期待できるでしょう。

「ジーンズ50's」が 団塊世代のキーワード

定年後の新しいライフスタイルをイベントで提案することは、非常に有意義なことでしょう。

ただ、現在は、送り手すなわちイベントの主催者側が、団塊の世代の意識に追いついていない。人を集めるためには、団塊への認識を改めることが大切です。

昨日、私は、あるニューミュージックアーティストのライブに行ったのですが、会場には団塊世代らしき方々がたくさん来ていました。彼らは静かに観ていたわけではありません。私の隣にいた恰幅のよい女性は、途中からスタンディングで踊り始め、私はその勢いにつぶされそうでした(笑)。少し前の席にいた、頭の薄くなった団塊男性も、スタンディングしながら手でリズムをとっていました。

このようなイベントで“熱くなる”。その気持ちの若さが、団塊の特徴です。「今、嬉しいと感じる呼ばれ方」を聞くと、上位を占めたのは「若々しい」「自然体」「センスが良い」。従来50代の常識だった「分別のある」「成



Profile ● さかもと・せつお

早稲田大学商学部卒業後、1975年に(株)博報堂入社。プロモーション企画を担当。2001年よりエルダービジネス推進室室長に就任。中高年世代の調査研究を手がける。共著に『巨大市場「エルダー」の誕生』、『団塊サードウェーブ—新しい大人文化が生まれる—』などがある。

熟した人」と答えた人はごく少数でした。

その理由は、「自分たちの世代を表す言葉」からも推測できます。アンケートでは「ビートルズ」「グループサウンズ」「フォークソング」が上位に来了。つまり、音楽の影響が大きい世代であるわけです。彼らの象徴ともいえるポール・マッカートニーやミック・ジャガーはいつまでも成熟しないが、センスの良い大人である。こうした人たちと気持ちは同じということです。

団塊女性に関しては、若者と並ぶ、エンタテインメント消費の担い手でもあります。クラシックやオペラ会場は団塊女性でいっぱい。音楽も演劇もテーマパークも、友達同士でおしゃれをして行き、帰りはグルメなレストランで食事する。実は、ヨーロッパの大人型の文化消費をする人が増えているわけです。2007年以降は、夫を巻き込んで大人の文化消費をすることでしょう。「新しい大人文化」が花開く可能性があるわけです。

また、母娘消費が盛んなことも、団塊女性の特徴です。表参道ヒルズや六本木ヒルズに行くと、かなり多くの母娘連れが来ている。母は娘から最新情報を仕入れ、友達の間で拡げているわけです。

こうした傾向から、我々は、団塊の世代を、「ジーンズ50's(フィフティーズ)」と呼んでいます。若い頃ジーンズで学校や仕事場に行き、今でも家ではジーンズを履いて軽やかな気分です。実際、アンケートでも、男性の50%、女性の55%が休日にジーンズを履いていました。

ソーシャルイシュー解決の担い手にも

これらを踏まえ、団塊が喜ぶ大人の文化を提案できれば、新しいライフスタイルを創り出せるでしょう。

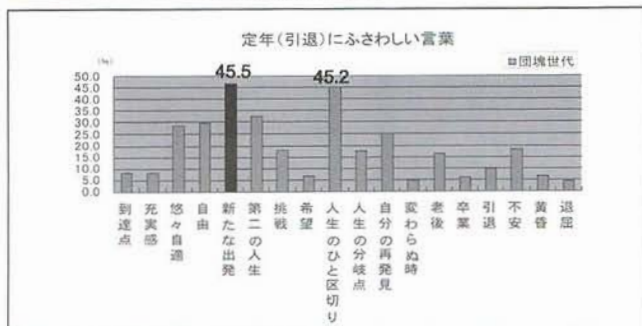
「新しい大人文化」のアイデアは、既存概念に団塊の世代のウォンツを加えることで生まれます。たとえば「家族仕様の住空間」に「自分時間の充実」を加えて、「自宅でプチホテルライフ」「観光巡りのバックツアー」に「ドラマチック体験」を加え「行き甲斐旅行」「希薄な季節感」に「自然と肉体のリズムで生きる」を足して「旧暦生活」…。これからは、団塊の世代を対象に、このようなテーマで、リフォームや旅行などの見本市をするということも考えられるでしょう。

団塊の世代は趣味や嗜好がバラバラといわれますが、非常に良いことではないでしょうか。ライフスタイルは100通りも200通りもあっていい。「私はこういうライフスタイル」と選べる形が望ましいといえるでしょう。

これらのイベントが各地域で開かれる。そのイベントに、団塊の世代は、客としてだけでなく、有償ボランティアとしても参加する。そんな形ができれば理想的でしょう。世話役や文化芸術のガイド役、経理相談役…。さらには地域社会の旗振り役になることで、ソーシャルイシュー解決の担い手になる可能性がある。世代間交流をして若年層を支えられれば、社会に大きなプラスとなるでしょう。

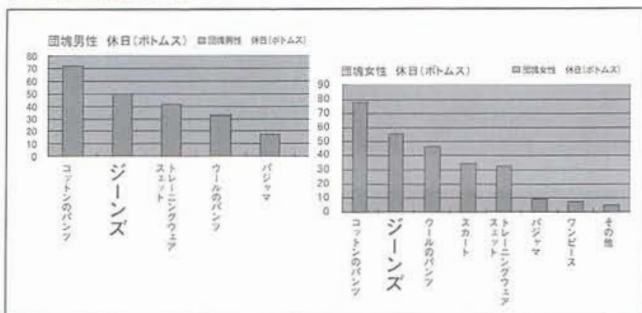
実は、理想的な定年後のライフスタイルは、30代でもしたい「新しい大人のライフスタイル」なのです。それを団塊の世代が創り出せば、若い人のゴールになる。また、団塊の上下の世代にも刺激を与えるはずだ。

図1●団塊の定年観は「新たな出発」



2005年7月、博報堂エルダービジネス推進室調べ。「新たな出発」「自由」「自分の再発見」など生涯現役を思わせるポジティブな言葉が上位に。「老後」「引退」といった人生の終盤を思わせる言葉は低位にとどまった

図2●団塊休日のボトムスはコットンパンツとジーンズ



2005年3月、博報堂エルダービジネス推進室調べ。これまでの50代と違い、男女ともにジーンズの愛用者が多い。ファッションへの高い関心が伺える

図3●上下世代に刺激を与える団塊の世代



新しい時代をデザインする 社会実験としてのイベント

2007年を待たずして、団塊世代にセグメントしたビジネス、メディア、コミュニティは百花繚乱だ。その最前線で成功を収める人々は、エルダーが求める新しいイベントのスタイルを、どう予測するのか。

知的好奇心が強く世話好きな 団塊世代たち

秋岡 本日は多士済々な方々にお越し頂いておりますが、共通するのは「団塊世代を対象にしたビジネス、コミュニティづくり」に成功されていることだと思います。そのアプローチ法、役割も含め、我々イベント学会へ大いにアドバイスをいただければ幸いです。まずはそれぞれご自身の活動を通して、団塊世代の方々をどのように捉えているのか。そこから伺えますか？

霜田 『クラブツーリズム』のお客様は50歳以上が71.8%を占める。まさに団塊世代ですね。この方々を我々は「アクティブ・シニア」と呼びます。というのも、彼らは高校や大学でクラブ活動を夢中になった世代。そこで我々は、一つの趣味的な内容に特化した旅行ツアーを提供しているわけです。「写真クラブ」「社交ダンスクラブ」「歩く会」といった具合。通常の旅行会社とは違い、こうしたイベント的な旅行とダイレクトマーケティングによってリピーター率も非常に高いですね。一例ですが最多参加数を持つ方は904回。これまでに3000万円の料金をいただいております。「いろんなことをとことん知りたい」という知的欲求は非常に強固で、失せることがない。これこそがそれ以前の世代と異なる、大きな特徴ではないでしょうか。

秋岡 『サライ』編集長の東さんはいかがでしょう？

東 知的好奇心のみならず、行動意欲も、購買意欲もものすごく旺盛だと思います。『サライ』が創刊された17年前までは「老醜無惨」などという旧態依然な中高年イメージがはびこっていましたがね。もっとも、ビートルズやジーンズなど、サブカルチャーの洗礼を受けた団塊の世代は「遊び心がある世代」とも言われますが、日本の経済成長の礎を築いた方々でもある。実は相当に仕事人間であることも実感しますね。

秋岡 田中さんはいかがでしょう。また違った視点で、団塊世代を捉えられているような気がします？

田中 僕は、この世代にものすごく期待感を持っているんです。理由は二段階の挫折を味わっているから。まず大学時代の全共闘。そこで敗北していますよね。そして50代では空白の10年。ここで多くの団塊世代はリストラの対象となりました。反体制から体制側に入り日本の高度経済成長を支えてきたのに、最後の最後で企業側から裏切られたわけです。こうした背景もあって先ほど阪本さんが研究発表でおっしゃったように

●モデレーター

秋岡榮子 イベント学会理事

●パネリスト

霜田正明 クラブツーリズム(株) クラブ1000構想推進部部長

田中尚輝 地域創造ネットワーク・ジャパン専務理事

東 直子 (株)小学館 『サライ』編集長

師岡文男 上智大学 文学部教授・保健体育研究室長

「退職を喜ぶ」わけです。退職して企業の支配体系を離れた個人が、自由に創造的に、積極的にチャレンジしはじめる。そんな生き方が勃興してくるはず。もちろん『サライ』を読んだり、クラブツーリズムに参加されたりする方もいる。同時に起業しよう、NPOを創ろう、地域社会を変えてしまおうという動きが出るはず。もう一つ、団塊世代というか60歳を越える頃に多くの人がかかえるキーワードは「寂しさ」だと思うのです。だから旅行に行くし、NPOに参加したり、地域社会に帰ったりする。そこには出会いの場があり寂しさを紛らわす場があるわけですからね。そんな接点をうまくアピールすることも重要なのでは？

師岡 私はいま上智大学で生涯スポーツなどを担当し、同窓会の役員もしています。それらを踏まえて、感じるのは、団塊世代の方々には「問題意識がある」。学園紛争の時代に青春を過ごしていますからね。だからこそ「世話好き」な面もあり、「群れるのが好き」な面もある。こういう方々というのは、地域スポーツのリーダーになりやすい。加えて自ら遊べる人たちだと思うんですね。例えば、今日発売された雑誌『アエラ』で「中年になってからサーフィンを始める人が増えた」という記事が載っていました。こういう記事が載ること自体が、まだそうした現象が珍しげにされているということなのですが、来年、再来年になれば、当たり前のことになりそうです。

石臼、焼き鳥、お見合いパーティ…… 団塊向けイベントのヒントがある

秋岡 では団塊世代にイベントが背負う役割は？ どんなイベントが彼らのニーズを満たすのでしょうか？

東 キーワードとして「携帯電話」と「石臼」をあげたい。携帯電話は、先日松永真さんという65歳のグラフィック・デザイナーの方がデザインされたシニア向けの携帯電話が生まれました。もちろん、これまでもシニア向けの商品はありましたが、使い易いけれどデザイン性は無視したようなものだった。つまり同じ世代の人が商品開発のときにメンバーに加わっていれば、使い易くなおかつ美しいものができる。イベントでもそんな意識が不可欠だと思います。また石臼というのは実は『サライ』の通販で最大のヒット商品なんですね。なぜか。何に使うかという「お蕎麦をひく」ためです。時間とお金が増えた男性たちは、挽きたて、打ちたて、ゆでたての「三たて」を求めて、蕎麦打ちに熱中してい



クラブツーリズム(株)
クラブ1000構想推進部部長

霜田正明——しもだ・まさあき

Profile

玉川大学文学部卒業後、近畿日本ツーリスト(株)入社。東京メディア販売事業のイベントセクションにてオリンピックなどの海外交流型イベントに取り組む。04年クラブツーリズム(株)に移籍。06年より現職。

クラブツーリズムはシニアに特化した旅行会社。近畿日本ツーリストから2年前に分離独立した。『旅の友』という媒介を元にダイレクトレスポンスコミュニティ・マーケティングを展開。首都圏500万人の顧客を誇る。

Profile

福岡県生まれ。青山学院大学短期大学英文科卒業後、(株)小学館入社。98年より現職。01年より発行人兼務。05年には『サライ』増刊『プラチナサライ』を経て、兄弟誌『駱駝』を創刊。情報誌編集局チーフプロデューサー。

1989年創刊の雑誌『サライ』は、団塊世代を中心に(読者平均年齢57歳)実質発行部数22万4000部を誇る大人気雑誌。『シニアのビジネスモデルとして最も成功しているといわれる事例のひとつ』といえるだろう。



(株)小学館 『サライ』編集長

東 直子——ひがし・なおこ



地域創造ネットワーク・ジャパン 専務理事
(社)長寿社会文化協会 常務理事

田中尚輝——たなか・なおき

Profile

1943年京都府生まれ。中央大学中退後、全国高齢化社会研究協会等の設立に携わる。特定非営利活動法人NPO事業サポートセンター等、様々な団体の役員を兼務。著書に『団塊シニアが社会を変えるNPOビジネス』等。

地域創造ネットワーク・ジャパンは、日本中のNPOをネットワークし、そこに関わるシニアの方々の活動やノウハウをコーディネートする組織。現在約3000のシニア団体と、約30万人のネットワークを持つ。

Profile

1954年東京都生まれ。筑波大学大学院研究科修了後、イリノイ大学レジャー研究学科客員講師等を経て、00年より現職。日本レジャー・レクリエーション学会、(N)日本ワールドゲームズ協会、(財)日本ウエルネス協会等、計23団体で役員を兼務。

上智大学で「ウエルネスの理論と実践」「生涯学習とスポーツ」などを教授する傍ら、2001年には第2のオリンピック『ワールドゲームズ』の招致を成功させ、スポーツに対する意識改革と「するスポーツ」人口を増やすことに尽力。現在は、世界中から2万5000人の中老年選手を集める国際的なスポーツ大会『ワールドマスターズゲームズ』や『コーポレートゲームズ』の誘致を手がけている。



上智大学 文学部教授 保健体育研究室長
生涯スポーツ・野外教育学・ウエルネス研究

師岡文男——もろおか・ふみお



イベント学会理事
秋岡榮子 — あきおか・えいこ

る。また、それはハレの日のイベントとして、友人たちを集めて、蕎麦を振る舞うことをとても喜びとしているん

です。こうしたニーズを拾い集めることが、大きなイベントにも転用されるのでは？

田中 私どもが実践しているイベントを例としてあげさせていただきます。まずは『オトパ』。これは「お父さん帰っていらっしやいパーティ」の略ですが、団塊の世代と地域社会がまだ連携していないので、その地域のNPO、ボランティア団体が集まって、リタイアした方々を集めてマッチング、いわばお見合いパーティをやっているのです。これは大勢の方が参加すると共に、NPOへの参加する確率が約5割にのぼります。こうした場をイベントとして提供することが、参加のハードルを低くする。何かしらのヒントにしたいだけだと幸いです。

師岡 スポーツの語源は「deportare」。ラテン語で「普段とは違うことをやって楽しむ」という意味です。だから、IOCの公認スポーツとして、チェスやブリッジも入っている。今までのように体育会系、文化系と色分けすることなく「楽しめること」を一緒にし、集まる場所、イベントを作る。生涯スポーツの機運が高まる中で重要なことだと思います。その際に大切なのは、

「必ず飲食をつけること」だと思うのです。今日このあとに懇親会がありますが、これが無ければ大半の人は帰ると思うんですね(笑)。ヨーロッパのスポーツクラブでは、施設内にたいていその街で一番の美味しいレストランが入っている。人間の基本的な欲求に根ざした総合的な施設、イベントをつくる。それがまた家族を繋げる場にもなると思います。例えば、私が知っている総合型地域スポーツクラブのマネージャーさんの仕事は「焼き鳥を焼くこと」なんですね。スポーツした後に人々がビールを飲んで、焼き鳥を食べる。その売上が運営資金になっているのです。こうしたスポーツだけではないクラブライフの楽しみ方が重要なのです。

秋岡 なるほど。イベントに取り組む側は、エルダー世代に対する固定観念に縛られず、豊かな発想と尊敬の念をもって企画を考えることが大事なようですね。みなさん、本日はどうもありがとうございました。



多彩なバックグラウンドを持つパネリスト。エルダーイベントについて活発な議論がなされた

■ □ 懇 親 会 □ ■

研究大会、総会が終了した後は、隣室「らんの間」に場所を移して懇親会が開催されました。

まず、堺屋太一会長の挨拶。学生さんが多数参加していたこともあって、イベント学の必要性和イベントの効果について、オリンピックやサッカーW杯を例にわかりやすく解説されました。今日の話をつきかけに、多数の学生がイベントの世界に入ってくることが期待できそうです。続いて、森隆一副理事長の乾杯の挨拶。ここで、堺屋会長が発表したモンゴル建国800周年記念イベントについての報告がありました。

懇親会には、講師の方々も多数参加。学生さんは、企業からの参加者に負けないくらい積極的に交流していたのが印象的でした。



堺屋会長のイベント学概論に、学生たちも興味津々



会員、講演者、学生たち……。食事とお酒が入り、賑やかな交流の場



乾杯の挨拶をする、森隆一副理事長

2006年度総会報告

6月19日(月)、東京グリーンパレスにて研究大会終了後、2006年度総会が開催され、会員81名(委任状含む)の参加を得て審議が行われました。

本年度は、2008年にイベント学会10周年を迎えるにあたって記念事業を企画する委員会や、新規会員加入促進のための委員会の新たな設置が決まりました。また10月に敦賀市で年次大会を開催することも決まりました。

この他イベント学研究助成やイベント学懇談会も引き続き行われることとなりました。具体的な内容が決まり次第お知らせしますので、ふるってご参加下さることを期待しています。

決算・予算

次の2005年度決算案および2006年度予算案を審議、承認しました。(単位:円・▲はマイナス)

科 目		2005年度決算	2006年度予算	科 目		2005年度決算	2006年度予算
I 収入 の 部	会費収入 計	9,419,000	9,950,000	II 支出 の 部	管理費 計	4,566,484	5,310,000
	事業収入 計	4,521,165	8,600,000		事業費 計	11,365,198	11,400,000
	当期収入 計(A)	13,940,165	18,550,000		当期支出合計(C)	15,931,682	16,710,000
	前期繰越収支差額	2,971,823	980,306		当期収支差額(A-C)	▲1,991,517	1,840,000
	収入合計 (B)	16,911,988	19,530,306		次期繰越収支差額(B-C)	980,306	2,820,306

役員人事

4月に行われた個人会員役員選挙および会長・理事長推薦の結果、下記の通り新役員の顔ぶれが決まりました(任期2年)。

イベント学会役員名簿 [法]は法人会員

役職名	氏名	所属・役職				(6月19日現在)
会 長	堺屋 太一	(株)堺屋太一研究所 代表取締役	理 事	宮木 宗治	(社)日本イベント産業振興協会 調査・研究本部長	
理事長	成田 豊[法]	(株)電通最高顧問 電通グループ会長	理 事	宮本 倫明	(有)メディアマーケット 代表取締役	
副会長	井関 利明	慶応義塾大学 名誉教授	理 事	師岡 文男	上智大学 教授	
副会長	北本 正孟	(株)カントリー 代表取締役	理 事	山本 寛斎	(株)山本寛斎事務所	
副会長	橋爪 紳也	大阪市立大学大学院 教授	理 事	稲垣 正夫[法]	(株)アサツーディ・ケイ 代表取締役会長	
副会長	間宮 聡夫	順天堂大学大学院 客員教授	理 事	谷 喜久郎[法]	(株)新東通信 代表取締役会長	
副会長	望月 照彦	多摩大学大学院 教授	理 事	秋重 邦和[法]	大日本印刷(株) 常務取締役	
副理事長	久米 安雄[法]※	TSP太陽(株) 代表取締役社長	理 事	渡辺 亮[法]	(株)丹青社 代表取締役社長	
副理事長	乃村 義博[法]	(株)乃村工藝社 代表取締役社長	理 事	川村 治[法]	(株)テー・オー・ダブリュ 代表取締役社長	
副理事長	森 隆一	(株)電通 常務取締役	理 事	久保 恭一[法]※	(株)東急エージェンシー 代表取締役社長	
常務理事	川本 直彦	イベント学会 常務理事	理 事	足立 直樹[法]	凸版印刷(株) 代表取締役社長	
理 事	秋岡 榮子	E&Cブリッジズ 代表取締役	理 事	佐藤 洋樹[法]	(社)日本イベント産業振興協会 常務理事	
理 事	浅葉 克己	(株)浅葉克己デザイン室	理 事	成田 純治[法]	(株)博報堂 代表取締役社長	
理 事	五十嵐嗣郎	イベント学会 事務局長				
理 事	野川 春夫	順天堂大学 教授	監 事	園田 栄治	(株)インタープラン 代表取締役会長	
理 事	マリ・クリスティーヌ	(有)エムキューブインターナショナル	監 事	宮地 克昌	福山大学 客員教授	

※なお6月末に、人事異動のため、法人会員のTSP太陽(株)は久米安雄氏から河野康之氏に、(株)東急エージェンシーは久保恭一氏から五十嵐正氏に、変更となりました。

イベントの価値は伝わりにくい——。
こんな感想を持つのは私だけではないと思います。
そして今、イベントの社会的評価は依然として安値に張り付いたままです。

ある大学の授業で「博覧会は地域の発展に有効か無効か」と言うテーマで討論したところ、9:1で「有効」が圧倒したそうです。しかし、どうやら積極的に「有効」が論証されたのではなく「無効」であることの論証ができなかったことによるようでした。

「なぜイベントをするの?」「一過性のイベントは意味がない」「お祭り騒ぎは嫌い」とイベントを否定する説得力(?)のある言葉は数多くあり、かの愛知万博も開催の数ヶ月前まではメディアを通じて、様々な方が「インターネットが進んだ時代に疑問がある」と説得力のある疑問を投げかけていました。

とはいえ、イベントを生業にする私として、自分の仕事の説明を他人任せにする訳にはいきません。と、一生懸命考えるのですが、なかなか良い言葉が見つかりません。いっそのこと、イベント学会で「イベントの“つぼ”コピー大賞」を作って大枚の懸賞金をかけて募集でもしたい気分です。

そこで、もしそんな大賞ができたときのために、私が考えるコピーをお知らせします。

第1案「イベントは心の公共工事」

イベントは社会が必要とするテーマを掲げそれをいち早く実現するものです。人は日常で多くの人と出会い、話し、暮らしています。しかし、あまり1つのことを一緒にすることは多くありません。これでは、課題の解決力が弱い社会となります。

現代の社会には粘り強さが必要です。しかし、だからといって突然「皆さんで何か一緒にしましょう」と言われても困るわけで、そこでイベントの登場です。

近年、「テーマコミュニティ」という言葉を耳にされると思います。イベントは、まさにこれの塊です。

そのときに社会が必要とするテーマの下には、それを実現する無数の小テーマが存在します。それに関心のある方が集まり、実現していただくことになります。このプロセスは、まさに人と人の繋ぎ直しであり、「心の公共工事」な訳です。

第2案「ITはイベントを越えられない」

現代の社会はIT化でいろいろなことが一瞬でできるようになりました。企画書を作るときにもその効果はできめで、一昔前にはきっちり1日必要だったことも、今ではWebサイトをスイスイとサーフィンし、画面をクリックしているうちにアツと言う間にできてしまいます。こんな便利な世の中と思いきや、最近感じるのは寄

～学会員リレーエッセイ～ **イベント雑感** 第5回 **澤田裕二**

学会員が、イベントまたはイベント学に関して日々思うことを提言していく『イベント雑感』。今回は、愛知万博やモーターショーなどでイベント演出、デザインを手がける株式会社SD代表の澤田裕二氏に、寄稿していただきました。

イベント



Profile ● さわだ・ゆうじ

1957年東京生まれ。明治大学建築学科卒業。博覧会デザイナー・プロデューサー。展示演出デザイナー・プロデューサー。(株)SD代表取締役。94年世界リゾート博会場計画。97年山陰・夢みなと博覧会会場演出チーフディレクター。01年山口きらら博プロデューサー。同博山口銀行パビリオンでジャパンエキスポ大賞受賞。国営ひたち海浜公園サインデザイン。モーターショーなど大型イベントの演出デザイン・プロデュース。愛・地球博でも催事ディレクターを担当する。

り道や道草のなさです。知識の寄り道です。

本棚で知りたい情報に行き着くには、あちらこちら手当たり次第に本を手にとって、超スピードで目を通しつづけます。その過程の中でさまざまな情報との出会いがあり、イメージが膨らみ、新しいアイデアが浮かんだことは何度もあります。このような情報との出会いにとっても鍛えられたと思っています。

パーソナルコンピュータは、その中にデスクトップがあり、情報が取り出せ、加工でき、ファイルできるのですが、本当のデスクトップとは根本が違います。

それは、人間が動物であることに起因していると思います。人間は進化の過程で生命を維持するには、とても多くの寄与的情報をもとに判断することがプログラムされているのではないのでしょうか。

本を持てばその重さ、手触り、匂いが、文字、絵の情報と同時にフィードバックされます。人と話せば体温、体臭、顔色が話した内容と合わせてフィードバックされます。このような文字や形にならない情報の中に重要な情報が含まれていて、「暗黙知」と定義するそうで、人間がある行動や判断をするときの多くは「暗黙知」に基づいているのだそうです。

イベントはまさにこの「暗黙知」の宝庫であり、この点でITはイベントを越えられないのです。「ハハハハハざまーみろ」であります。

第3案「イベントは目の当たり実験室」

イベントが新しいものを作り出す現場には何度も遭遇しています。イベントは通常の生活や業務と切り離されることがその基本です。したがって、今までとは違うネットワークや進め方ができ、若い人、実績のない人にも「ボン」とチャンスを渡してくれます。そして、「まあ、イベントだからいいか」と普段厳しい会社や街の方々も、許してくれる確率が高くなります。

しかし、凄いのは実際に多くの人の目の前に現れることです。この目の当たりにする強さは何を持っても替えがたい説得力があり、「これいいじゃない」と本業や生活に取り入れられていくのです。「ビジョンというのは絵にかけなければなりません」とは泉真也さんの言葉ですが、イベントはその絵を越えて実現するのです。これはモービっくりです。

私は冗談半分で「このイベントは素晴らしい世界を目の当たりにできます。そして、今まで誰も経験したことのない空間と時間を皆さんに提供できますが、とても惜しいことに、それはあまりに素晴らし過ぎて、“絵にもかけない美しさ”なのであります」と言って失笑されています。

取り留めのないことを長々と書きましたが、「イベント雑感」と言うことですので、雑文をご笑読いただけたら幸いです。

の“つぼ”コピー大賞

▼▼『イベント雑感』への寄稿募集▼▼

このコーナーでは、学会員のみなさまの寄稿を募集しております。「イベント学会への提言」「わたしとイベント」など、イベントまたはイベント学会に関してあなたが思われていることを2000字(400字詰め原稿用紙5枚)程度でまとめ、住所、氏名、年齢、電話番号を明記のうえ、下記の宛先までお送りください。なお、掲載文は一部手直しさせていただく場合があることを、ご了承ください。

宛 先

〒102-0082

東京都千代田区一番町13(一番町法眼坂ビル3F)

「イベント学会事務局・EVENTOLOGY

『イベント雑感』係」

FAXは03-3238-7834

2006年度イベント学会研究助成受付開始

イベントに関する理論や技術の開発に資するように、2004年度から始めましたイベント学会研究助成を、今年も下記の要項で実施致します。

応募資格 イベント学会会員。個人およびグループで応募できます。

助成金 1件20万円以内

応募期間 2006年10月15日

研究期間 2006年11月1日～2007年5月31日

応募方法 申込用紙(別添)に必要事項を記入の上、学会あてに郵送・宅配または持参して下さい

応募先 イベント学会事務局

詳しいことはイベント学会事務局までお問い合わせ下さい

TEL:03-5215-1680

E-mail: eventlgy@kk.iij4u.or.jp

なお、2005年度助成研究論文(4件)の発表会を行う予定ですが、日時・場所が決まり次第お知らせいたします。

イベント学会懇談会

今年度もイベント学会員の交流を促進するためのイベント学懇談会を2～3ヶ月毎に1回行いたいと思います。今年度第1回目の懇談会の日時・テーマが決まりましたらお知らせいたします。また、会員の方々から懇談会のテーマ・講師についてご提案をお待ちしていますので事務局までご連絡下さい。

イベント学会入会手続き

- 1) 入会ご希望の方は、申込書(会員種別)にご記入の上イベント学会事務局あてご郵送下さい。
- 2) 申込者について理事会等で審議し、入会を承認された方には入会承認書と振込み案内をお送りしますので入会金(初年度のみ、準会員は不要)と年会費を指定の口座にお振込み下さい。
- 3) これ以降、会報『イベントロジー』や研究報告書、大会、部会などのご案内をお届けします。

イベント学会会費一覧(2006年度/円)

会員種類	入会金	年会費	備考
1) 個人会員	5,000	10,000	個人
2) 準会員		2,000	大学生、大学院生、専門学校生など
3) 自治体会員	20,000	50,000	地方自治体
4) 法人会員(1口)	100,000	100,000	企業、団体などの法人